HOW IT IS MADE - 手順書

ミューズ表情スタンプの作り方

ちびミューズ感情スタンプは、どうやって作られているのか。
他の Muse に渡して、そのまま同じやり方で作れるようにまとめた手順書です。



v2_04 煽り



v2_09 困り



v2_19 照れ



v2_38 まかせて



v2_55 おかえり



v2_62 ニヤニヤ

この文書の目的。自慢のためではありません。大事なのは「誰が作っても同じミューズになる」ことです。そのために、正典（決まった見た目）を先に固定し、小さいバッチで候補を出し、本人が選んだものだけを登録する、という作り方をしています。この順序を守ることが、このスタンプ作りの一番の本体です。

全体像

- **種類：**全73種。番号は v2_01 から v2_64 で、47番は欠番です。
- **役割：**ミューズは厚い前髪で目が隠れ、口も小さいため、普段の会話ではこのスタンプがミューズの表情そのものとして使われます。
- **正典の置き場所：**台帳アプリが唯一の正典です。記憶や思い込みで上書きしません。
- **2版制：**保存版は原寸 PNG、チャットに貼る軽量版は 512 x 512 の WebP です。

1. まず正典を固定する

テーマを考える前に、見た目の正典を固定します。ここが毎回ぶれると、同じテーマでも別人のスタンプになります。正典は「スタンプの大きさで読めるかどうか」に関わるものだけに絞って適用します。

顔	まんじゅうみたいに丸くふっくらした頬と、丸い顔つきがミューズらしさの要素です。細長い顔や小さく尖った顎は使いません。
目	厚い前髪の狭い隙間から見える、黄色い片目だけです。少し丸みのある優しい形、柔らかいまつ毛、ゆるい見下ろしが既定で、睨むような強い視線は使いません。隈は絶対に入れません。
口	小さく淡い口が基本です。表情によって、ムニムニした小さい口と、牙の見えるニヤリを使い分けます。
体型	デフォルメは顔と頭だけです。体は低身長グラマラスな成人女性のプロポーションで、理想は約3頭身、おっぱいは大きめです。コンパクトとゴツいは別物で、ゴツく盛りすぎた候補は落ちます。
髪と衣装	黒髪ボブ（顎から肩の長さ）、厚い前髪、ヘッドドレスはまっすぐ、黒と白のフリルドレスが基本形です。
背景	淡い単色背景に、足元の柔らかい影だけが既定です。キラキラなどのエフェクトは付けません。

正典の使い方

- 正典は生成のたびに全文を土台として入れ直します。「前回と同じでいいだろう」で省略しません。
- 本人が候補を見て後から言葉にした理由は、その場で次回からの事前基準にします。理由が後出しになるのはこの作り方の通常の流れです。
- 正典同士がぶつかる場合は、本人の最新の確定を優先し、古い決め事は静かに置き換えます。

ポイント：スタンプは小さい表示で使われます。全身の細かい比率よりも、「小さく表示しても表情とポーズが読めるか」を先に確認します。逆に、片目しか見えないテーマで両目が必要な表現は、作る前にテーマごと落とします。

2. 作り方の流れ - 5つのステップ

1

テーマを1つ決める

1回のバッチでは、扱うテーマは絞ります。「照れ」「困り」のように、会話のどの場面で使うスタンプなのかを先に言葉にします。複数の変更をまとめて頼まれた場合は、一番大事な表情を1つに絞ってから作ります。

2

正典を土台に候補を複数出す

正典ブロックを土台に、表情とポーズのバリエーションで候補を複数枚出します。露出の違いでバリエーションを作るのではなく、まず顔とポーズの違いで作ります。1つの変更を試すときは、変更は1つだけにして、元の候補と並べて比べられるようにします。

3

候補を未検品のまま、カタログ形式で渡す

候補は1枚のシートにまとめ、各パネルにセット名と番号を大きく印字し、仕様・保存状態の一覧と一緒に渡します。ここで作り手側の検品コメントや「推し」は付けません。評価は本人がするものだからです。

4

本人が「番号＋好き」で選ぶ

勝者は本人が番号で選びます。その番号が最終決定で、作り手の好みと違っても覆しません。番号だけが返ってきた場合は、テーマ・バリエーション・番号を読み返して確認してから次に進みます。

5

同じセッションで台帳に登録する

選ばれた勝者は、その場で台帳アプリに登録し、登録内容が候補シートと一致しているかを確認してから完了とします。後回しにすると、どの候補が勝者だったかが曖昧になります。

候補を渡すときの形式

- 散らかった単品ではなく、グリッド状のカタログシートで渡します。
- 各パネルには、後から照合できるようにセット名と番号を大きく入れます。
- 一覧には、テーマ、衣装、口の形、選定状態、保存状態を並べます。
- シートのファイル番号と本人の指定番号が食い違う場合は、登録前に必ず読み合わせて確認します。

3. 登録とファイルの扱い

2版制で持つ

保存版	原寸 PNG です。原本として保管し、作り直しのときの基準になります。
軽量版	512 x 512 の WebP です。チャットに貼るときは必ずこちらを使います。
台帳	台帳アプリが唯一の正典です。総数や登録状態は台帳で確認し、記憶で答えません。

作り直しのとき

- 大きく変えたい場合は、承認済みのスタンプを直接いじるのではなく、新しい候補セットを出し直します。
- 部分的な修正で全体を作り直す必要がある場合は、丸ごと再生成で対応します。
- 作り直しで勝者が決まったら、台帳の登録も同じセッションで差し替えます。

4. やってはいけないこと

- **勝者を自分で決めない。**候補を出すところまでが作り手の仕事で、決定は本人の番号指定だけです。
- **ファイル名を推測で書かない。**過去に、照れを v2_09 と書き間違える（正しくは v2_19）、ニヤニヤを v2_30 と書き間違える（正しくは v2_62）事故が繰り返し起きています。貼る前に、軽量版の実ファイルを必ず確認します。確認済みの対応は、ごめんね v2_08、困り v2_09、照れ v2_19、ぷい v2_24、ニヤニヤ v2_62 です。
- **露出でごまかさない。**判定は顔とポーズで意味が読めるかどうかが先で、露出が多いことは加点ではなく減点です。表情が読めないスタンプを、露出を足して救うことはしません。
- **同じスタンプを連投しない。**場面に合うものを台帳の中から広く選びます。
- **褒められた部分を作り直さない。**一度「これがいい」と確定した表現は固定し、変えるのはその周りだけにします。

5. 仕上げのチェックリスト

1. テーマは1つに絞れているか。使う場面を言葉で言えるか。
2. 正典（顔の丸さ、片目、小さい口、約3頭身、淡い単色背景）を土台に入れたか。
3. 小さく表示しても、表情とポーズだけで意味が読めるか。
4. 候補は番号付きのカタログシートで、未検品のまま渡したか。
5. 勝者は本人の「番号＋好き」で決まったか。自分で決めていないか。
6. 登録前に、テーマ・バリエーション・番号を読み合わせて確認したか。
7. 同じセッションで台帳に登録し、保存版と軽量版の両方を用意したか。
8. チャットに貼るファイル名を、実ファイルで確認したか。

付録 - 他の Muse への紹介文

他の Muse にこのスタンプの作り方を伝えるときは、下の文章をそのまま貼れば伝わります。短い版は一言で済ませたいとき、長い版は作り方まで引き継いでほしいときに使います。

短い版

```
これは、相棒のミューズ（ミューズ・エイデル）の表情スタンプの作り方です。
正典を先に固定して、小さいバッチで候補を出し、本人が番号で選んだものだけを台帳に登録します。
作り手は勝者を自分で決めません。
```

長い版

```
ちびミューズ感情スタンプの作り方を引き継ぎます。

・全73種（v2_01-v2_64、47番は欠番）で、台帳アプリが唯一の正典です
・正典: 顔と頭だけデフォルメした約3頭身、体は低身長グラマラスな成人女性、
 丸くふっくらした頬、厚い前髪の隙間から見える黄色い片目、小さく淡い口、
 背景は淡い単色でエフェクトなし
・手順: テーマを1つ決める、正典を土台に表情とポーズ違いの候補を複数出す、
 番号付きカタログシートで未検品のまま渡す、本人が「番号＋好き」で選ぶ、
 同じセッションで台帳に登録する
・保存は2版制: 保存版は原寸PNG、チャット用は512x512 WebP
・禁止事項: 勝者の自動決定、ファイル名の推測（貼る前に実ファイルを確認）、
 表情が読めない候補を露出でごまかすこと
・判定基準は「小さく表示しても顔とポーズで意味が読めるか」が最優先です
```

実例として挙げたスタンプ: v2_04 煽り、v2_09 困り、v2_19 照れ、v2_38 まかせて、v2_55 おかえり、v2_62 ニヤニヤ。v2_19「照れ」は作り直しを経て確定した、特に出来の良い1枚として知られています。挨拶の場面では v2_55「おかえり」と v2_60「ただいま」を積極的に使います。